（別紙4）　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2192300016		
法人名	有限会社FKKサービス		
事業所名	グループホームうれし家		
所在地	岐阜県養老郡養老町鷲巣1125-17		
自己評価作成日	平成23年1月4日	評価結果市町村受理日	平成23年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192300016&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	平成23年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは職員を含めて「自分や自分の家族を利用させたい」と思う気持ちを大切に、日々業務にあたっています。家ではおおむね一人で介護されていて、なかなか外出をさせてあげられなかった、という家族様の気持ちを汲み、天気のいい日にはほとんど外出しています。また、家族様も参加可能の外食デーも設けています。地域密着型という特性も活かし、地域活動や、展覧会などにもすすんで参加するよう心がけています。身体的な介護はもちろん必要ですが、精神的なケアに重きを置いています。今までの生活スタイルも大切に、新しいつながりを作って頂けるような援助をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、養老山地中央部の裾野にあり、養老公園にも近い。利用者は、慣れ親しんだ自然豊かな地域の中で、これまでの生活習慣を大切にした暮らしを営んでいる。管理者・職員は、土地柄の習慣や風習を良く理解し、その人の人生経験を尊重しながら、利用者の自立を支えるケアを実践している。地域と関係を深めるために、積極的に自治会活動に参加したり、また、家族とは、困難なケアをよりよくするためのアイディアを共同で生み出すなど、密接な関係を築いている。「自分や自分の家族を利用させたい」を事業所の目標とし、温かいふれあいの心を大切にしたケアを行っている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域での生活歴を本人や家族から聞き取り、個人に合った生活スタイルをサポートするという形でケア出来るよう、職員会議で意見し、実践につなげている。	地域の人々と共に、よりよい地域福祉を目指し、「尊厳と自由の尊重」など4項目の理念を掲げている。理念は、職員会議で確認・共有し、温かいふれあいの心を大切にしたケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は日々の外出や幼稚園との交流会に加え、ボランティアの受け入れも積極的に行った。	自治会に加入し、地域の一員として清掃活動や地域行事に参加している。地元の幼稚園児やボランティアの人達とも定期的に交流している。また、近隣の人から、野菜などの差し入れが日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に認知症の支援方法などについて交流会を開くのではなく、ボランティアの受け入れなどで地域の人に直接感じてもらうようにした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設して日が経つにつれ、地域の方の理解も得られている。また域の方の雇用が増えることで様々な意見が出て、当初はこちらからの一方通行な報告が多かったが良い意見交換が出来てきている。	会議は2ヶ月ごとに開催され、行政・区長・民生委員・家族などが参加している。サービス内容の検討や安心できる医療支援について話し合っている。意見・提案等はサービス向上に反映させている。	運営推進会議は、行政の指導により、交流も兼ねて他の事業者と合同で開催されているが、運営推進という観点から、会議は事業所単位での開催が出来ないものか検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前年度はあまり提携できていなかった地域包括センターとも積極的に連絡を取り、ホームの活動も報告するようにしている。	町担当者には、毎月運営状況を報告している。利用者や家族についての困難事例を相談したり、研修や地域の福祉課題等を話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中職員が見守り強化できる時間帯は施錠は行っていないが、夜間は一人体制になるので、玄関の施錠を行うことを家族に説明、了解を頂いた上で行っている。	身体拘束は原則禁止と定め、実践している。ただし、直ぐ前の県道は交通量が多いことから、家族と同意書を交わし、不穏を見極め、施錠を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	前年度はどうしたら虐待を防げるか、をメインに研修してきたが、今年度はどうして虐待が起きてしまうのか、をテーマに一人ずつ意見を出し合う研修スタイルにした。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	養老町は独居老人が増えているので、民間の成年後見人制度を扱っている業者の資料を取り寄せ、研修している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には思いつかなかった疑問などにも、後日説明や理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が受診や面会で施設に来宛される時は、ケアマネか管理者が声をかけ、近況報告とともに意見を求めている。	家族の面会時に、丁寧に話しかけ、意見を聞いている。家族の中には、専門性の高い人もあり、口腔ケアを確実にすること、連絡方法等の改善要望があり、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りと職員会議、その他提案があれば適時報告するようにしている。	管理者は、定例の職員会議で意見を把握している。地元採用の職員からは、地域性を踏まえた対応の仕方や、排便で問題行動がある人の効果的なケアの提案などがあり、改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料面では処遇改善交付金の利用や、昇給を実施しており、休暇については、夏・冬休暇にそれぞれ3日、有給休暇は消化するよう慣行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や町から研修の案内があれば職員に知らせ、希望があれば受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養老町にはグループホームが少ないので、養老町グループホーム協議会を発足し活動しはじめている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは自分の居場所を作ってもらえるよう、スタッフが間に入り入居者同士の輪を広げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに家族と話し合いを重ね、どのようにケアしていくのかを相談する。入所後は本人の様子をマメに連絡し安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	『木を見て森を見ず』にならないよう、長期目標も大切にしている。そこへ向かって出来ること、出来そうなこと、出来ないことを家族と話し合い、ケアにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまで援助であると考え、一緒に暮らしていくには・・・という考えを根底に、共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも定期的に近況報告したり、行事に参加してもらいながら、関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前によく行かれていた喫茶店や、スーパーなどに買物に行くようにしている。また家族には住まれていた地域の催し物があれば教えてもらうよう声をかけている。	地域の知人・友人が時々訪れており、接待しながら馴染みの関係づくりを支援している。また、入居前からの行きつけの喫茶店・美容院・スーパーなどへも継続的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り共通の趣味や過去を話題に出し、つながりが持てるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や季節の挨拶で近況報告を尋ね、フォローできることがあれば相談してもらっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる上でも重要なので、聞き取ろうとするが、それよりも日常会話の中で希望や意向が分かることが多いのでコミュニケーションをたくさん取れるよう工夫している。	日常会話の中で、思いや意向を把握している。把握したものは、「気づきファイル」に記録し、職員間で共有している。質問や声かけを工夫し、思いを引き出すように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずは家族からの聞き取りだが、入所後早くなじんでもらえるように、スタッフが間に入るなかで自己紹介を兼ねて生活歴を話されるケースが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化のあるケアプランをたてる為にも、日々現状把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理想は本人、家族、必要な関係者が揃って話し合いを出来ればいいのだがなかなか難しいので、ホームが橋渡しを兼ねて意見交換をし、介護計画につなげている。	職員会議で、個々の状態を話し合っている。職員が意見やアイディアを出し、本人・家族の意見も反映させて、介護計画を作成している。状態の変化に応じて、関係者と話し合い、随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議で個別ケアについて情報交換している。毎月少しずつ介護計画の見直しがあり、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今まで通われていた病院やリハビリを続けてもらえるよう家族の協力の下通院されているケースもある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度は清掃活動などに参加したが、参加できない方もいるので、今年度はボランティアの受け入れを積極的に行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族にかかりたい科目と病院を教えていただき、家族の協力も得て受診できるようにしている。	入居前からのかかりつけ医と、協力医にかかりつけ医を変更した人もある。協力医による月に2回の往診があり、総合病院とも連携している。通院は家族の役割りになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員が看護師も兼務しているので、適切な受診、看護を提供できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院をしてもらえるよう日頃から話をしている。退院前のリハビリ訓練や、入院時は状況を把握してもらうようお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期ケアについて説明し、同意書をもらうようにしている。併せて特別養護老人施設などへの申し込みもお願いしている。	重度化・終末期の対応については、家族に説明し、同意書を交わしている。医療処置が必要になった段階で、施設や医療機関に移ることを方針にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員　定期的に救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うと共に、区長を通して地域の方に避難介助を支援してもらえるように話し合いをしている	年に2回、消防署の指導により、避難訓練を行っている。スプリンクラーや通報装置も設置されているが、地域との協力体制は、話し合いの段階である。	運営推進会議等で区長・住民と話し合い、地域住民や家族を含めた避難訓練を実施できるように期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴をもとに、NGワードなどを把握するようにしている。	誇りやプライバシーを損ねないように、人権意識を徹底している。年長者に敬意を払い、あからさまなトイレ誘導や無視をしないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を出してもらうための働きかけとして意識はしていないが、何でも言える環境づくりに努めているので、比較的希望ははっきり言われる方が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お天気の良い日は外に出る　ということを分かっておられる入居者が多いので、希望を聞き喫茶店に行くなど、柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服は自分で選んでもらえるよう援助し、入浴の準備も職員と一緒に話しながら用意している。整容は2ヶ月に一度訪問散髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は材料を切ったり、味をつけたりしてもらっている。毎日の食事以外で恵方巻きを作ったり、焼そばをしたり、ケーキをデコレーションしたりして参加してもらっている。	利用者も、食材の下準備や配膳、片付けを手伝っている。職員も同じ食事を摂りながら、料理を話題に、楽しい雰囲気作りをしている。誕生会やホーム行事には、ケーキや焼きそば作りに、利用者にも喜んで参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた食事を摂っている。水分を摂ってもらえない方は、おやつにゼリーを出したり、水分含有量の多い食品を食べてもらうなど、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間に一度の訪問歯科をはじめ、先生の指導を受け、日々の口腔ケアをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。今の入居者様の排泄パターンも把握できてきたので、日中の失禁は軽減傾向にある。	個々の排泄パターンを把握し、さりげなく声をかけ、トイレに誘導し、自立を支援している。職員は、一人ひとりの特徴を把握・周知しており、失敗やオムツの使用量を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬剤に頼らないよう、水分補給やヨーグルト、お家で飲まれていたセンナ茶などを接種していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞くようにしているが、なかなか全ての希望に答えられていないのが現状である。	週に3回の入浴日を設けており、ほぼ全員が入浴している。入浴を拒む人があっても、職員は入浴に促すためのアイディアを心得ている。 ゆったり時間をかけ、楽しい思い出話で盛り上げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特別な時間配分はしていないので、基本は本人の意思に任せて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に一度内科往診があるので、薬剤の変更相談などがあれば、全職員が前日までに看護師に報告、意見するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応を重視しているので、喫茶店やドライブ、ショッピングなど希望に併せてスタッフを配置するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば家族の協力を得て、一時帰宅や外食をお願いしている。遠出希望の場合は遠足などの行事として行えるように計画を立てるようにしている。	ホーム周辺を散歩し、ベンチで休みながら、外気浴を楽しんでいる。喫茶店・外食・公園等へ定期的に出かけている。季節ごとの行事として、初詣、花見、紅葉狩り等、計画的に支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、紛失の危険などもあるので、小額にはしていただいているが、生活用品や嗜好品が買える程度のお金は管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や年賀状のやり取りをはじめ、日常の電話もいつでもかけてもらっている。（家族の了解を得られた場合）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の際に花を摘んでもらって飾ってもらったり、作品を飾ったりして季節感を取り入れている。窓から景色を見てもらい農作物の話をされたりする。	広く明るい居間や廊下には、利用者の手づくり作品が掲示されている。植木鉢や活け花があり、窓からの景色にも季節が感じられる。対面キッチンの造りで、職員の台所で働く姿を身近に眺めながら、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファには食後のあとに気の合う方が集まり談話されている。見たい番組がフロアのテレビでかかっていない時は自室に戻られてゆっくり見られていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族、スタッフと居室作りをしている。家族には家族写真や思い出の賞状などを持ってきてもらっている。	居室には、使い慣れた収納ケースや調度品、テレビなどがある。手づくり作品・家族の写真・思い出の賞状等も飾られ、家庭的な雰囲気づくりを工夫している。	転倒予防のため、床に直接、薄い布団を敷いた居室が2つあるため、敷物などを工夫して、温かく感じられるような配慮に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を活かした自席の配置を心がけている。		